

スクリーニング、ヨウ素服用…大飯原発事故想定して防災訓練

2013.3.18 08:53 [\[地震・防災\]](#)



放射放射性物質の付着量を測定するスクリーニングを受ける住民＝滋賀県高島市朽木柏のグリーンパーク思い出の森体育館

関西電力大飯原発（福井県おおい町）での深刻な事故の発生に備えた大規模な防災訓練が17日、滋賀県高島市などで行われた。滋賀県と高島市が主催し、県警や消防、自衛隊、文部科学省、原子力規制委などが参加し、情報伝達のあり方や各機関との連携の問題点などを探った。大飯原発から30キロ圏内の住民も訓練に臨み、避難の手順などを確認した。

東日本大震災に伴う東京電力福島第1原発の事故を教訓に、滋賀県が昨年度から原子力防災訓練に取り組み、今回が2回目となる。

訓練は「若狭湾沖を震源とする地震が発生し、2日後に大飯原発で原子炉の炉心損傷が生じて放射性物質が放出された」との想定で行われ、県庁や市役所などには災害対策本部が設置され、担当者らが被災状況の情報収集や関係機関との連絡などに当たった。

避難訓練には、同原発から約25キロの距離にある4つの集落の住民45人が参加した。住民らは市の防災行政無線を通じて一時避難指示が発令されたことを知り、集合場所に定められている市立朽木西小学校に避難。防護服を着た県警の特別救助隊員や自衛隊員らの指示を受けながらバス6台に分乗し、さらに30キロ圏外の体育館へ移った。

体育館では、住民らは着衣や身体などに付着した放射性物質の量を測定する「スクリーニング」を受けたり、甲状腺がんの原因になる放射性ヨウ素が体内に蓄積されるのを防ぐ「安定ヨウ素剤」の服用手順を確認したりした。同市朽木小入谷の主婦、加来千代美さん（53）は「高齢のため訓練に参加したくてもできなかった住民もいる。そういう人をどう助けるか、地域のみんなで考えていかないとけない」と話していた。

安定ヨウ素剤の服用手順を確認する住民ら＝滋賀県高島市朽木柏のグリーンパーク思い出の森体育館

